

経営の将来性を見極める融資手法をはじめ、担い手に適した資金供給方法の提供

タイトル 農事組合法人檜椎小原へのアグリシードファンド対応について

JA名 農林中央金庫長崎支店（長崎県）

1 動機 （経緯）	当法人は、①効率的かつ安定的な農業構造の早期確立、②農業所得の向上、③農地の集約化や耕作放棄地の解消、④6次産業化への取組みを目指して、前身の農業機械利用組合から平成27年8月に農事組合法人に組織変更。法人化については、対馬市厳原町佐須地区の米生産者約100名で組織された集落営農組織から農業機械利用組合を経て、農事組合法人として設立。生産基盤は水稻25ha、そば16haで直接栽培・作業受託を実施。今後、地域の担い手としての機能を発揮すべく、規模拡大や独自の加工品生産にも取り組むこととしており、新しい農業機械の導入や運転資金確保等のための資本増強課題を解決するため、アグリシードファンドを導入しました。
2 概要	契約日：平成28年3月15日 投資金額：4,900,000円 取得単価：1,000円/口 取得口数：4,900口 使途：運転資金
3 成果 （効果）	① 資本増強となり、ステークホルダーに対する対外信用度向上。 ② 対馬地域の農業法人に対して、アグリシードファンドの認知度向上。
4 今後の予定 （課題）	本件を機に当法人との関係性が深耕し、現在当法人への短期つなぎ資金の融資手続きが進行している。農業法人への融資は長崎支店初となることから、当法人のニーズをくみ取りながら円滑に手続きを進めてまいります。

社屋



稲作風景



ライスセンター

